

令和2年度「彦根市地域学校協働活動推進事業」

地域学校協働本部事業 地域未来塾事業

実践事例集



彦根市教育委員会

目 次

1	彦根市の事業概要と経緯・取組について	1
2	各校の地域学校協働本部事業の取組	
東中学校	地域から学校へ 学校から地域へ 課題解決のための協働	6
城東小学校	伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンド活動の充実に向けて～	7
佐和山小学校	地域とともに取り組んだ 6年生 修学体験学習「修学体験 IN 彦根」	8
旭森小学校	「安心感と温かさを伝える」～保護者・地域とのつながりを深めるために～	9
西中学校	地域とともに創る「瞳輝く 明るい 楽校」	10
城西小学校	児童の豊かな学びを、地域とともに創造する	11
城北小学校	地域に学び、人、もの、ことへの愛着心を育てる『城北たんけん～このまち大好き～』	12
中央中学校	学校・公民館とともにある学校 SCHOOL SUPPORT	13
平田小学校	心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり	14
金城小学校	地域の力でつくる子ども達の豊かな学習活動	15
南中学校	彦根南サポートオフィス 10年目の取組 ～継続は力～	16
城南小学校	つながりが生み出す豊かな学び	17
城陽小学校	つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～	18
亀山小学校	We Love かめやま	19
彦根中学校	未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動	20
河瀬小学校	見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」	21
高宮小学校	学校と地域の繋がりで育む2つの愛（地域愛、自分愛）	22
鳥居本中学校	地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動	23
鳥居本小学校	「ふるさとと共に生きる喜びを」 地域とつながる体験活動の支援	24
稻枝中学校	地域の人と共に歩む地域協働活動	25
稻枝東小学校	子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動	26
稻枝西小学校	「ALL はえみ」 地域とともに、学びの充実をめざして	27
稻枝北小学校	ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして	28
若葉小学校	「子どもたちの笑顔のために」 チームわかばンク 5年目の取組	29
3	各校の地域未来塾事業の取組	
東中学校	子どもたちのやる気を応援！！	30
西中学校	未来のために！「来たれ未来塾！」	30
城西小学校	基礎・基本の定着をねらいとした学習支援	31
城北小学校	地域の方による学習支援	31
中央中学校	来てみる・やってみる 「土曜教室 てみる」	32
	子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり	32

南中学校	放課後学習「水曜ゼミ」	33
城南小学校	「わかった」「できた」子どもの笑顔のために	33
城陽小学校	つなげよう 子どもを育む 地域の力～地域の力で学びを深める～	34
亀山小学校	夏休み学習教室～基礎・基本の学力の定着を目指して～	34
彦根中学校	学びを育む学習会	35
鳥居本中学校	地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾	35
鳥居本小学校	輝く笑顔 一人ひとりの「わかった！」をめざして	36
稻枝中学校	本当にわかったと生徒が感じる学習サポート	36
稻枝東小学校	子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動	37
稻枝西小学校	わくわく はえみ学習	37
稻枝北小学校	わかる楽しさを味わい、学ぶ意欲を高める「ぐんぐんクラブ」	38

4 資料

彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱	39
令和元年度彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿	41
令和元年度彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿	42

彦根市地域学校協働本部事業・地域未来塾事業

彦根市教育委員会事務局生涯学習課

□事業の概要

- ・幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を推進し、学校と地域との連携体制の構築を図る。
- ・地域住民が自らの経験や知識を活かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化など、地域づくりにつなぐ。
- ・地域未来塾では、小学生・中学生を対象に放課後や土曜日等に教員OBや大学生など地域住民の協力による学習支援を実施する。この取組で学力向上を図るとともに、さまざまな要因により、学習習慣が身についていない小・中学生への支援にもつなげる。
- ・7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稻枝）と若葉小学校支援地域協議会に委託して実施する。

□取組の経緯・取組

- ① 平成20年度～平成22年度 3年間の文部科学省委託事業
平成20年度 東、稻枝 市内2中学校区で事業が始まる。
平成21年度 東、西、鳥居本、稻枝 市内4中学校区に拡大実施
- ② 平成23年度から 市の事業（国・県・市 1/3ずつ負担） 市内全7中学校区で実施
- ③ 平成24年度
 - ・市内7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稻枝）
 - ・予算 4,734,000円（補助金3,156,000円）
 - ・実行委員会の開催（年3回）
 - 7月31日(火) 10:00～11:30 事業説明・実践交流
 - 11月29日(木) 14:00～16:00 研修会・実践交流
 - 3月1日(金) 14:30～16:30 実践のまとめ・振り返り
 - ・H24年度の取組重点
 - 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
 - ・学校訪問 11月 7中学校訪問
- ④ 平成25年度
 - ・市内7中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稻枝)
 - ・予算 4,583,000円（補助金3,055,000円）
 - ・実行委員会の開催（年3回）
 - 構成委員：15名+事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）
 - 8月 2日(金) 14:00～15:30 事業説明・実践交流
 - 11月 28日(木) 9:30～11:30 研修会・実践交流
 - 3月 4日(火) 9:30～11:30 実践報告・振り返り
 - ・H25年度の取組重点（継続）
 - 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
 - ・学校訪問 11月 7中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

⑤ 平成 26 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稻枝)
- ・予算 4,613,000 円 (補助金 3,075,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 3 回)
構成委員：15 名 + 事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
8 月 4 日(月) 14:00～15:50 事業説明・実践交流
11 月 26 日(水) 9:30～11:40 研修会・実践交流
3 月 2 日(月) 9:30～11:30 実践報告・振り返り
- ・H26 年度の取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問
11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・平成 26 年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰
被表彰団体：彦根市学校支援地域本部
- 12 月 8 日(月) 文部科学省東館 3 階講堂(東京都千代田区霞が関 3-2-2)



⑥ 平成 27 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稻枝)
- ・予算 4,633,000 円 (補助金 3,075,000 円 → 2,226,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 3 回)
構成委員：15 名 + 事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
8 月 4 日(火) 9:30～11:30 事業説明・実践交流
11 月 30 日(月) 9:30～11:30 研修会 (TKJ 演習)・実践交流
2 月 25 日(木) 14:00～16:00 実践報告・振り返り
- ・H27 年度の取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問
11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑦ 平成 28 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会 (東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稻枝)
- ・学校支援地域本部事業予算 4,632,000 円 (補助金 3,088,000 円)
- ・土曜学習支援事業予算 450,000 円 (補助金 300,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 2 回)
構成委員：15 名 + 事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
7 月 12 日(火) 9:30～11:30 事業説明・実践交流
2 月 9 日(木) 9:30～11:30 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・コーディネーター連絡会の開催 12 月 22 日 (木) 14:00～16:00
- ・H28 年度の取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
学校支援に学校と地域の連携・協働活動を加える。
- ・学校訪問
10 月～11 月 7 中学校訪問
学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑧ 平成 29 年度

- ・市内 7 中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稻枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 4,410,000 円（補助金 2,895,000 円）
- ・地域未来塾事業予算 2,295,000 円（補助金 1,530,000 円）
- ・実行委員会の開催（年 2 回）

構成委員：18 名 + 事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

7 月 14 日（金）9:30～11:30 事業説明・実践交流

1 月 29 日（月）14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

- ・H29 年度の取組重点

学校と地域の連携・協働活動の推進

（学校と地域の連携強化 地域のネットワークの拡充）

- ・学校訪問

10 月～11 月 7 中学校と若葉小学校訪問

地域学校協働本部事業と地域未来塾事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

- ・コーディネーター研修会および連絡会の開催

12 月 22 日（金）14:00～16:00

講師 湖南市立菩提寺小学校地域コーディネーター兼学校運営協議会理事

安部 正毅 氏 「地域コーディネーターに必要なこと」



⑨ 平成 30 年度

- ・市内 7 中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稻枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 4,464,000 円（補助金 2,976,000 円）
- ・地域未来塾事業予算 2,351,000 円（補助金 1,567,000 円）
- ・実行委員会の開催（年 2 回）

構成委員：18 名 + 事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）

7 月 13 日（金）14:30～16:30 事業説明・実践交流

1 月 28 日（月）14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

- ・H30 年度の取組重点

地域学校協働活動と地域未来塾の推進

コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校の連携強化とネットワークの拡充

- ・教頭研修会

7 月 9 日（月）10:30～11:30 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動に係る研修

- ・学校訪問

10 月～11 月 7 中学校と若葉小学校、稻枝西小学校を訪問

地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

- ・コーディネーター連絡会の開催

12 月 21 日（金）14:00～16:00 コミュニティ・スクールの実践報告と情報交流



⑩ 令和元年度

- ・市内 7 中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稻枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 3,336,000 円（補助金 2,224,000 円）
- ・地域未来塾事業予算 2,211,000 円（補助金 1,474,000 円）
- ・実行委員会の開催（年 2 回）

構成委員：19 名 + 事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

- 7月 4日(木) 14:30～16:30 事業説明・実践交流
1月 27日(月) 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・令和元年度の取組重点
 - 地域学校協働活動のさらなる充実
「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
 - ・学校訪問
 - 10月～12月 7中学校と若葉小学校、稲枝西小学校を訪問
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
 - ・コーディネーター研修会の開催
 - 12月 19日 (木) 14:00～16:00
滋賀県コミュニティ・スクールアドバイザー北辺禎雄氏
「コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校の連携・協働活動について」
- ↓
- ⑪ 令和2年度
- ・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会
 - ・地域学校協働本部事業予算 2,645,000円(補助金 1,763,000円)
 - ・地域未来塾事業予算 1,956,000円(補助金 1,304,000円)
 - ・実行委員会の開催(年2回)
 - 構成委員: 19名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
6月 18日(木) 14:30～16:30 書面会議(事業説明資料を送付) 7月 2日(木)まとめを送付
 - 1月 26日(火) 14:00～16:00 WEB会議 今年度の実践報告・次年度に向けて
 - ・令和2年度の取組重点
 - 地域学校協働活動のさらなる充実
「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
 - ・学校訪問
 - 10月～11月 7中学校と若葉小学校、城北小学校、稲枝西小学校を訪問
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

- ・実行委員会の開催（年2回）

第1回 書面会議 6月18日(木)事業に関する資料配布

7月2日(木)新型コロナウイルス感染予防対策や活動の工夫の書面交流

第2回 WEB会議 1月26日(火)各本部の実践交流・次年度に向けた協議

- ・学校訪問（10～11月）

各支援地域協議会(委託先)とコミュニティ・スクールの計10小中学校を訪問し、地域学校協働本部事業、地域未来塾事業、コミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握と助言を行った。

■本年度の成果

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。
- ・コミュニティ・スクールの理解や設置促進に向けて、市の広報に特集記事を掲載した。
- ・社会教育委員の会議において、コミュニティ・スクール設置に向けた研修や協議等を行い、地域からコミュニティ・スクール設置の機運を高めようとする取組を始めることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、支援のネットワーク化を図り、新たな人材を確保していくことが重要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進委員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度新たに2校で1つの学校運営協議会を立ち上げ、本市の学校運営協議会は5協議会(6校)となる予定である。今後は、これまでに学校運営協議会設置校の取組の成果と課題をもとに他校へのスムーズな導入につなげていきたい。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・読み聞かせは、校内テレビ放送の活用やマスク・フェイスシールドの着用などの対策を講じて実施した学校が多いが、臨場感を持たせながら、子どもたちが密集しないようにする場の工夫が難しい。
- ・地域未来塾では、個別指導による密接を避けるため、対面しないことや衝立を間に置くなどの工夫をして、各校の状況に応じてその実施に努めた。
- ・支援してくださる地域の方が高齢者であることが多く、感染リスクを避けるために活動を縮小・中止する選択をせざるを得なかつた学校が多い。

地域から学校へ 学校から地域へ 課題解決のための協働

彦根市	活動名 : 東中学校区地域学校協働本部	東中学校	学校運営協議会 : □有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度 : 平成 20 年度	地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 1 人)	ボランティア登録数 : 50 人	
■学習支援 (授業補助、学力補充等)	■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備)	□学校行事支援	
□子どもの安全確保、見守り	■部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
□郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

- 学校
- 地域学校協働活動推進員等
- 行政
- その他 ()

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

<GAKKOU 展の開催など> (10/10~11/23)

衰退しシャッター街化してきた学区内の商店街が、BIWAKO ビエンナーレ (アートイベント) の会場のひとつになるということで、学校も協力して盛り上げようと、商店街と相談し、空き店舗をお借りして、児童 (城東小・佐和山小)・生徒・教員の作品を展示。

期間内の土日祝日の終日開館。また期間中にあったゑびす講では、児童 (城東小マーチング)・生徒 (書道部・吹奏楽部) がパフォーマンスを披露する場を設定。



【 GAKKOU 展の会場入口 】

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

地域コーディネーターが商店街の会議などに出席して商店街や商店街連盟と連携。手指の消毒やマスク着用を呼びかけ、換気や会場に入る人数の制限等を配慮。



【 ハロウィンイベントの様子 】

■ 事業の成果

支援地域協議会で、「地域の課題は学校の課題でもある」としながらも、なかなか取り組むことができなかつたが、たくさんの子どもや保護者、地域の方が商店街を訪れ、一時とはいえ、商店街の活性化に学校も寄与することができた。一方で、今年度はコロナ禍で、子どもたちが発表の場を失ったり、地域に学校を開くことができず、地域と学校の間に距離ができ、これまでにはなかつた課題が生まれていたが、その解決にもつながつた。

それどころか、これまで学校に足を運ぶことがなかつたような方にも、子どもたちの作品や姿を見ていただき、学校や子どもを身近に感じていただくことができた。また、期間が長かったので、美術部の生徒が会場で大作を仕上げたり、ボランティア部が小さな子どもたちのためにハロウィンイベントを開催したりするなど、生徒が新しいことにチャレンジする機会をつくることもできた。経費を商店街が負担してくださつたので、経済的な面でも心配なく取り組むことができた。



【 商店街作成のチラシ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日々の教育活動で精一杯の学校に、新しい取り組みの提案は難しいため、日常の教育活動をうまく生かしながら、地域も学校も元気になるような取り組みにチャレンジしていきたい。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

今回の取り組みにも言えることだが、支援地域協議会での人のつながりや会議で話し合っていることが、新しい一步につながる。地域と学校の協働は容易くないが、まずは顔をあわせて話し合い、信頼関係を築くことが大切であると実感している。

■コーディネーターと協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

- 校長
- 教頭
- 地域連携担当教職員
- その他 (担任・学年主任・担当教員 (PTA・部活動・委員会・日本語指導)・読書支援員・PTA 役員)

報告書記入者 (地域コーディネーター)

伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンド学習の充実に向けて～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	城東小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成20年度	地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人）	ボランティア登録数：80人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他〔 〕		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 ■地域学校協働活動推進員等
□行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・マーチングバンドの各パートの練習（毎週金曜日6校時）
- ・校内発表会や卒業式歓送などの校内行事への参加
- ・ゑびす講などの地域行事への参加

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・コロナ感染拡大防止のため、例年実施される「城まつり」が中止された。そこで、商店街連盟の方や地域コーディネーターと連携し、地元商店街が行っている「ゑびす講」の中で、静止演奏とマーチングパレードをする区域と時間を限定して実施した。
- ・「ゑびす講」で行われる、城東小学校マーチングバンドの発表と東中学校プラスバンド部の発表の時間をずらすことに加え、それぞれの発表場所の距離を十分とすることで、観客が密になることを減らせるように工夫した。
- ・6年生から5年生への「引継式」までの取組は楽器の体験学習をやめ楽器の紹介学習として実施した。
- ・「引継式」後の12月上旬から1月下旬にかけて、6年生から5年生への引き継ぎ期間を設定している。楽器ごとに学習場所を分け、密になることを避けながらボランティアの方の指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心の引継ぎも大切にしている。
- ・本校卒業の教育実習生が自分の担当していたパート指導をし、実習終了後キャリア教育として、伝統を守ってきた思いを述べ、トロンボーンの演奏を行い、高学年が鑑賞した。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働本部と地域と連携することで、指導体制を充実させると共に、本校の伝統であるマーチングバンドの学習を、コロナ感染拡大防止の対策をとり地域で発表することができた。
- ・指導ボランティアの方の熱心な指導により、例年より学習回数が減っても子どもたちの演奏技能が向上し、意欲向上へつながった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働本部を通じて学校と地域とともに連携していくことが大切である。
- ・地域コーディネーターと人材の発掘と情報交換に努め、「学校」という場を核に、地域の人間関係の中に「あてにする - あてにされる」相互関係を生み出せるような活動を計画する。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

マーチング学習に関する児童の感想

ゑびす講でみんなに披露できて見てもらえてよかったです。次は、伝統を引き継いでもらうために、先輩に教えてもらったように5年生にしっかりと教えてあげたいです。伝統を引き継いでがんばるぞという気持ちで、私たちのマーチングをこせるようになってほしいし、その次の学年にも引き継いでほしいです。



【ゑびす講でマーチングの発表】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者 地域連携担当教員

地域とともに取り組んだ 6年生 修学体験学習「修学体験 IN 彦根」

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 20 年度	地域学校協働活動推進員等数：2 人（兼務〇人）	ボランティア登録数：85 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	□学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
□郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 □地域学校協働活動推進員等
- 行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

6年生修学体験学習「修学体験 IN 彦根」

今年度は、新型コロナ感染予防のため、例年実施している県外への修学体験学習の代わりに、自分たちが住んでいる地域に視点を変えて1日市内を巡る「修学体験 IN 彦根」を実施することとした。

実施にあたって、銀座商店街の方々をはじめとする地域の方や佐和山応援隊の方に場所を提供していただいたり体験活動の指導や通行の安全を見守っていただいたりした。今年度初めての試みであったが、地域の方々の協力を得られたからこそ実現することができた。



【切り絵体験】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍でも実施可能な修学体験学習を子どもたちに味わわせたいという思いから、今回の彦根市内の修学体験という形になった。例年の活動と同じような活動ができるように、花しょうぶ通りや銀座商店街の各店舗で、活動に協力していただける方を探して、子どもたちが活動したりお土産を買ったりできるようにした。活動は、複数内容を考え、学校から彦根城をまわって学校に戻るウォークラリー形式とした。また、活動中の密集を避けるために、1つの活動場所に滞在する時間も決めたり、ウォークラリーのコースを右回りと左回りにして集団で1か所に集まらないようにしたりした。



【絵手紙体験】

■ 事業の成果

コロナ禍で様々な行事が縮小したり中止になったりする中で、地域を活用した様々な活動が実施できたことは、協力いただいた地域の方の温かい支援によるところが大きく、地域の方々の協力なくしては、実施することができなかつた。6年生の子どもたちにとっても、今回の修学体験学習の実施に当たり、地域や応援隊の多くの方々が協力してくれたこと、コロナ禍での実施ということで、様々な対策を考えてくださったことを実感しながら体験を楽しむことができた。多くの方に協力いただき、当日子どもたちは、グループでウォークラリーをしたりお土産を買ったりして、これまでの修学体験学習の内容と同じような楽しみを味わえただけでなく、切り絵や絵手紙などいろいろな体験活動も楽しむことができた。この体験学習を通して、身近な地域に目を向ける機会となり、これまで気付かなかつた様々な良さを知ることができた。



【陶芸絵付け体験】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今年度は、コロナ禍で修学体験学習に代わる行事として実施した。地域の方も子どもたちのためにと、会場借用やお土産購入等に快く協力してくださった。今後のコロナ感染拡大の状況にもよるが、次年度以降も「地域を知る・地域を学ぶ」という観点からも引き継いで実施できることが望ましい。地域の方の協力あっての活動であり、今年度初めて行ったことでもあるので、次年度にどのような形で今回の学習を生かしていくのかはっきり定まらないところがある。今後も地域と連携して活動を進めていくことを前提にして、つながりを絶やさない努力を学校として行っていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 □教頭 ■地域連携担当教職員
- その他（ 教務 ）

報告書記入者（ 地域連携担当 ）

「安心感と温かさを伝える」～保護者・地域とのつながりを深めるために～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 20 年度	地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 1 人）	ボランティア登録数：41 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	□学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 ■地域学校協働活動推進員等
- 行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動をしていただいている。例年、毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施してもらってきたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、2学期より事前に読み聞かせを録画し、ビデオ放送による形態で行った。子どもたちの心に響く本や季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業、図書室の掲示など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるように環境整備に協力していただいている。今後も、「すまいる」さんと連携しながら、読書活動の充実を図っていきたい。

○子どもたちの心を耕すためのゲストティーチャーの招聘

新型コロナウイルス感染症対策のため1学期は実施しなかったが、2学期より「密にならない学習の場づくり」等の対策をとった上で多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできた。2年生の「モビリティマネジメント出前授業」、3年生「郷土学習」・「警察署出前授業」、4年生の「福祉学習」、5年生の「トヨタ出前授業」・「弁護士出前授業」、6年生の「選挙出前授業」等を行った。どの学習活動においても子どもたちは、本物に触れることにより心を耕し、深まりのある学習を行うことができた。子どもたちの学習を支えていただいたゲストティーチャーの方々への感謝の気持ちでいっぱいである。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーに来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策もあり、電話等による事前打合せも行った。

○学校ホームページによる積極的な情報発信

今年度も多くの方々の支援のもと本校教育の推進にあたってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症対策により、保護者の学習支援ボランティアを募集しなかったり、屋内での学習参観を実施しなかったり（3学期は、地域別の学習参観を実施予定）と様々な措置をとった。そのため、学校の情報（子どもたちの学校生活の様子等）を十分に保護者や地域の方に直接伝えることが難しい状況であった。そこで、毎日、学校ホームページを通じ、「写真とコメント」による学校の情報の積極的な発信に取り組んできた。

『【学校再開・6月1日（月）】子どもたちが学校に戻ってきました。やはり学校には、子どもたちの元気な姿が欠かせません。どの学年の子どもたちも3密を避けながら、楽しく学習を進めました。1年生は、初めて全員がそろっての授業となりました。手洗いは、前の人との間隔をしっかりとあけ丁寧に行うことができました。また、登下校ではスクールガードの方をはじめとする地域の方々に子どもたちの安全見守りのご協力をいただいています。本当にありがとうございます。』これは、学校が再開した6月1日（月）の学校ホームページに掲載したコメントである。

■ 事業の成果

○コロナ禍の中、保護者や地域の方に学校ホームページを通じて、「安心感と温かさを伝える」ために多くの情報を発信することができた。今後も、保護者や地域の方とのつながりを深めるために積極的な情報発信に努めたい。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がってきている。今年度は、保護者ボランティアの募集を見合わせたが、次年度は、学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信し、協力を呼びかけていきたいと考える。

■旭森小学校ホームページURL <https://www.fureai-cloud.jp/asahinomori-hikone/>

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員
- その他（ ）



【「すまいる」さんによる図書室の掲示】



【3年生 警察署出前授業】

地域とともに創る「瞳輝く 明るい 楽校」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校	学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 21 年度	地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人）	ボランティア登録数：20人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	■部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		■地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
□郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校
- 地域学校協働活動推進員等
- 行政
- その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・学習環境を整備するための活動
- ・学校行事への支援
- ・地域の諸団体とともに使う地域貢献活動
- ・緊急時における登下校の安全を確保するスクールガードのマニュアルの作成
- ・地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ全校生徒制作の「クリスマスカード」配達



【クリスマスカード大作戦】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域コーディネーターと管理職や地域連携担当教員との綿密な打ち合せを行う。
- ・昨年度の実施内容を振り返り、改善点や変更点の確認を行う。
- ・積極的に学校の状況や情報を伝え、取組の事前打ち合わせに活かす。
- ・活動後に振り返りを行い、反省と課題を明らかにする。
- ・感染症対策のために、参加人員を少数とし、地域の方とのふれあいも、直接ふれあうなどの接触、または密を避ける。



【地域の方による環境整備】

■ 事業の成果

- ・地域の方から率直な意見や感想を聞くことにより、今後の活動に反映することができた。
- ・地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。また、地域の方にとっても生徒との活動にやりがいを感じていただけたり、地域の方から多くのお手紙やお礼の電話をいただいたりした。
- ・地域の専門的な知識・技能をもった方と連携協働をすることにより、学校運営が円滑に進んだ。



【七夕かざり】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域でどのような子どもたちを育てたいのかを更に共有する必要がある。
- ・情報のネットワークを広げ、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
- ・活動について外部から評価をしていただき、取組の改善に活かしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ひこね市文化プラザでの合唱コンクールの支援
- ・生徒に向けた「私の夢」執筆

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長
- 教頭
- 地域連携担当教職員
- その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

児童の豊かな学びを、地域とともに創造する

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 21 年度	地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務〇人）	ボランティア登録数：50 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	□学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 地域学校協働活動推進員等
□行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）郷土学習の充実

- 総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。
- ・3年生：地域の方を招き、学区内の歴史ある町並みや建物について話を聞いたり、一緒に町並みを歩いて説明を受けたりして、学びを深めた。
 - ・6年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動をしながら学びを深めた。



【 3年 わたしの町じまん 】

（2）学びを豊かにする学習支援の充実

- ・1年生：生活科の学習では、チューリップの球根の植え付けに地域の方に来ていただき、丁寧に植え方を教えていただいた。また、交流を通して、地域の方とのつながりを深めることができた。
- ・5年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン糸のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。



【 1年 チューリップ植え 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事前の打合せを今まで以上に丁寧におこなった。

また、例年学年一斉で実施してきた活動も、密を避けるために1学級ずつで実施したり、安全を確保できない際には活動内容の変更や、活動を中止したりするなど、児童・教員・ボランティアの安全面を考慮しての活動とした。



【 5年 ミシンの学習 】

■ 事業の成果

地域の方からの生の声を聞くことで、地域への愛情や大事に思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりだけでなく、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

中学校ブロック内の地域コーディネーターや学校と地域を結ぶコーディネート担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換したい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

コロナ禍により、例年と大きく異なる取り組みとなったため、次年度に向けて年間計画の見直しを図っていきたい。

今後の取り組みについては、地域コーディネーターと連携を密にし、感染症感染拡大予防策を徹底しながら、安全に活動を進めていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 □教頭 ■地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

地域に学び、人、もの、ことへの愛着心を育てる『城北たんけん～このまち大好き～』

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要			
開始年度：平成21年度	地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	ボランティア登録数：40人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		■地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他〔 〕		

- 事業を案内する主体（該当するすべてに■印）
 学 校 地域学校協働活動推進員
 行 政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

第3学年の総合的な学習の時間の取組として、琵琶湖でのクルーザー体験、彦根港でインタビューと観光船乗船、ミシガン州立大学連合日本センター外国人学生とのコミュニケーション等、地域ボランティアから説明を受けて体験学習する。また、その交通見守りや安全のサポートを協働して行う。



【 クルーザー体験 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域の方々の協力を得て、我が校区ならではの体験活動を多く取り入れることにより、児童が地域のよさ、素晴らしさに気付き、自分が見付けた城北じまんについて自分のことばで語るようにした。本年度はコロナ禍での活動のため、事前に教師が入念に下見を行い、予測される危険箇所の点検とともに、活動場所での見どころを確認した。安全への配慮とともに、児童に伝えたい事柄を絞り、地域学校協働本部のリーダーに伝え、当日は、地域学校協働本部のリーダーや参加いただけたボランティアの方々から、地域住民としての思いも交えながら児童に語りかけていただき、体験活動がよりいっそう深まるようにした。



【 史跡をたどって 】

■ 事業の成果

多くのボランティアの方々に参加いただき、子どもたちの安全への目配りとともに、地域のよさにふれる活動ができた。ポイント毎での児童の質問にもボランティアの方に答えていただき、児童は頷いたりメモをとったりしていた。また、活動中には児童と地域の方々が会話したり一緒に景色を楽しんだりするなど、自然と交流する姿が見られた。多くの体験活動から、児童は思い思いに自分の城北じまんを見つけ、「城北カルタ」の制作活動に熱心に取り組み、下学年児童や保護者に向けて発表することができた。



【 昔の道具体験 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

個々の児童のニーズに合ったコースや時間配分を工夫しているが、並行した活動の際には、引率に必要な人数が不足したり、グループごとの活動時間や待ち時間に大きな差が生じてしまったりする。これまでに引き継がれている見どころ等を参考に、コースや時間を設定しているが、児童の追究活動に応じた時間や場所を確保することが難しい。また、地域について語っていただける方が年々減少してきていることも、今後の活動を維持していく上で心配な点である。ボランティアを充実させていくために、地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、新たにメンバーを募っていきたいが、校外学習の場合は、指導内容とともに、児童の安全確保の役割や引率方法を周知し、明確に伝えておくことも必要である。加えて、熱中症対策や感染症対策等を行う必要があり、実施時期や形態も今後の検討課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

地域コーディネーターを中心として、参加可能なボランティアを募集したり、日程調整を行ったりするにあたり、事前に学校から計画書を提示し、内容面について説明する機会を設けている。これにより、取組の意図や、安全面の配慮について十分に検討を重ねた上で人員の配置等を決めることができた。例年行っている伝統的かつ文化的行事として地域に根ざしていることもあり、学校からの発信ではなく、地域コーディネーターが進んで学校に働きかけて話し合いの機会をもつこともある。地域に開かれた双方の教育課程として位置づけられていると言える。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校 長 教 頭 地域連携担当教員 その他（学級担任）

報告書記入者（ 教 頭 ）

地域・公民館とともにある学校 SCHOOL SUPPORT

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要			
開始年度：平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 0 人）	ボランティア登録数：14 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
□子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		■地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
□郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学 校
- 地域学校協働活動推進員等
- 行 政
- その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) P T A 行事である学校清掃作業に協力を依頼し、地域コーディネーターなどが、作業の段取りについての助言をし、当日は 8 台のトラックで伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。
- (2) 特別支援学級の授業で、年間を通して中庭での野菜作りを行った。キュウリや茄子や大根を育て一度途絶えた地元の「大藪かぶら」の再興に取り組み、様々な野菜作りの補助を行っていただいた。
- (3) 校内の環境整備事業として樹木の剪定と整備に取り組んでいただいた。
- (4) 「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの作品を、地域の公民館に 1 週間展示する取組について、その設営や後片付け等で支援していただいた。
- (5) 美術部や 3 年生の制作物を、定期的に地域の公民館に展示させていただいた。公民館職員や地域の方が企画や設置、後片付けをしてくださっている。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 生徒が地域行事に参画・参加する取組として実施してきた夏祭りや文化祭が中止となった。さらに、地域活動へボランティアで参加してきた清掃活動の多くがコロナ禍により中止となったが、地域の公民館での生徒作品展示や公民館事業に協力することにより、地域とともにある学校につながった。



【P T A 学校清掃作業での協働活動】



【中庭での野菜作りに協働・助言】

■ 事業の成果

- 毎年行っている活動については、支援の方々によく理解していただいている。スムーズな協働活動ができるようになってきている。
- 学校と地域さらに地域の公民館と連携した取組ができるようになってきた。



【公民館での中学生作品展示の準備】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。

○本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事等の教育活動への計画的な導入や連携を図っていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

活動の様子は本校ホームページに掲載 <https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/>

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長
- 教 頭
- 地域連携担当教員
- その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要		※実施した活動内容全てに■印	
開始年度：平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数：1人	ボランティア登録数：36 人	
□学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校
- 地域学校協働活動推進員等
- 行政
- その他（ ）



【読み聞かせボランティアさん】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）豊かな言語活動の育成をめざした「読み聞かせ活動」

本校では、豊かな言語の力を育成するために、朝学習の時間を活用して国語学習をしている。その言語学習を補足する形で、各月の第1水曜を読み聞かせの時間とし、地域ボランティアの方に絵本などの読み聞かせをしていただいている。

（2）学習環境の整備（教材園の整備、校地内樹木の整備）

2年生、3年生、4年生では、生活科や理科で学年花壇を使って植物や野菜の栽培を行った。その際、花壇の土起こしや畝づくりなどの定植準備をしていただいた。すっきりと整えられた学年花壇で、スムーズに生活科や理科の学習を行うことができた。その後の除草活動や手入れも行っていただき、有意義な学習活動を行うことができた。

（3）学校の「困った」に応える学校応援活動

学校では様々な「困った」について、地域コーディネーターに相談することがある。今年度当初、コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な対策を迫られた。中でも、春先は「マスク」の在庫不足により、十分な準備ができない家庭があることが懸念された。そこで、地域コーディネーターを通じて地域の元縫製会社経営の方を紹介いただき、布製のマスクの制作をお願いできた。これにより、十分な数のマスクを確保でき、マスクを忘れてきた子や足りなくなった家庭にマスクを配ることができた。また、学校では様々な作品展に出品し入賞者があり、たくさんの賞状が送られてくる。表彰状は、今後も残るものなのでしっかりと名前を書いてあげたいと思うが、本校には堪能な方がいない。ここでも地域コーディネーターに相談し、地域の達筆な方を紹介いただきお願いすることができた。やはりきれいな字で名前が書かれた表彰状はその値打ちも上がった感がある。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 例年、年度当初に「平田小学校地域学校協働本部事業総会」を開催し、1年間を見通した活動計画を立てていた。しかし、今年度は学校においては休校であり、また、総会のために地域の方を学校に集めることもできなかった。そこで、地域コーディネーターと相談し、紙面による総会とした。年間の活動計画等について、昨年度登録のボランティアさんへ送付し、承認のお返事をいただくことで共通理解を図った。
- 人材の発掘が本校における今後の課題であるが、その対策として、年度当初に「学校支援ボランティア募集のお知らせ」を平田学区全戸にお知らせをした。各自治会の協力の下、募集のチラシと登録案内を回覧板で回し、新たなボランティアさんの増員に努めた。その結果、新たに4名の方にお手伝いいただけたこととなった。



【学習環境整備（中庭除草）】

■ 事業の成果

- 学年花壇づくりでは、普段から畠仕事をされておられる方がボランティアとして活動してくださった。畠を耕し、草を取って畝をつくってくださった。担任からは、除草作業や畝づくりなど、これまで放課後の時間を使ってしてきた学習準備を、ボランティアさんが行っていただけなので、効率的に時間を使うことができ、教員の働き方改革にもつながる、と感謝の声が出ていた。
- 地域コーディネーターは、学校が把握していないような人材とのつながりをもっておられるなど、学校の困りごとの相談窓口としての存在は大変心強かった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- この数年来、事業実施上の課題は同様で、ボランティアさんの高齢化と固定化である。今年度当初、新規募集を行い4名の新たな方を迎えることができたが、まだ十分ではない。今後も新規メンバーの発掘に取り組んで行きたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ボランティアさんとの活動の様子を、学校の子どもたちの様子やお知らせとともにホームページで紹介している。
(<https://www.fureai-cloud.jp/hirata-hikone>)

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長
- 教頭
- 地域連携担当教職員

- その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教員）

地域の力でつくる子ども達の豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務〇人）	ボランティア登録数：129 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	□学びによるまちづくり	
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）	□地域行事への参加	■ボランティア・体験活動	
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 ■地域学校協働活動推進員等
□行政 □その他（ ）



【3年生総合「昔の遊び名人になろう】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 登下校の安全パトロールとあいさつ
 - ・金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、安全を見守りながら、あいさつの声かけをしてくださっている。
- (2) 体験活動支援
 - ・特別支援学級の大藪かぶら栽培、1年生の生活科「昔遊び」や3年生の社会科「昔のくらし」、総合的な学習の時間「昔の遊び名人になろう」の学習活動にゲストティーチャーを、5年生の家庭科でミシン操作を伴う学習活動に補助をお願いした。
- (3) 読みきかせ
 - ・朝読書の時間に読み書かせをしていただいた。
- (4) 学習環境の整備
 - ・校舎周辺の樹木の剪定や学級園の耕し作業などを実施していただいた。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

来校いただいた学習支援は、例年よりは回数が減ったが、3密対策や消毒・検温等を行い、実施した。

子どもたちはマスクをしての登校となり、子どもたちから、またパトロールの方々のあいさつの声が届きにくくなるため、声とともにハンドシグナルを活用したり、横断歩道を渡るときは手を挙げて渡ったりとコミュニケーションをとる様々な工夫をして取り組んでいただいた。



【5年生家庭科「ミシンに慣れよう】

■ 事業の成果

- 学習や生活がしやすい学校環境の整備ができた。
- 通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握することができた。
- ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。
- 地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じ取ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと。
- 子どもたちが、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会をより充実させること。
- ボランティアの高齢化に伴い、活動が広げられなくなってきたこと。また、ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること。



【校舎周辺の樹木の剪定後の作業】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

彦根南サポートオフィス 10年目の取組 ~継続は力~

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数：2 人（兼務 1 人）	ボランティア登録数：30 人	
□学習支援（授業補助、学力補充等）	□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	□学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	■部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
□郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 ■地域学校協働活動推進員等
□行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) グリーンカーテンづくり（5～9月）
夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで6年目。地域のボランティアや生徒の手により、見事なグリーンカーテンができた。
- (2) 環境整備作業（11月に実施）
学校周辺のフェンス際の草刈りを、地域貢献活動として参加した生徒、保護者・地域の方々が協力して行った。部活動の参加も含めて、総勢約 70 名による除草作業等を行った。刈った草は、特大ゴミ袋 47 袋にもなった。
- (3) 図書室環境整備
今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を見合わせている。
- (4) 地域貢献活動（年間）
例年は地域ごとに中学生が参加できる活動を紹介していただき、地域貢献活動を実施していたが、今年度は中学生が地域に積極的に出かける活動は見合わせている。



■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 地域と学校が連携した活動を推進するために、保護者や地域にボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを作成し、地域への啓発を行った。
- 校区内の地域コーディネーターと担当教員が定期的に中学校で会議を持って、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。
- 自治会や公民館などの地域の関係団体との連携については、今年度は見合わせている。

【 環境整備作業 】

■ 事業の成果

- ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている環境整備活動が地域や保護者の方に定着してきている。今年度は、多くの保護者や親子での参加等があり、大いに盛り上がった。
- 地域コーディネーターが校区の小学校の活動を取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結びつきが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだ広める必要があり、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。今後は地域の団体や校区にある大学等と連携・協働して事業を推進していきたい。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため生徒の地域行事への積極的な参加は見合わせたが、今後は感染症対策を講じながら、いかに連携を進めていくかが大きな課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/>

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

つながりが生み出す豊かな学び

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要			
開始年度：平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務〇人）	ボランティア登録数：80 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		■地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 ■地域学校協働活動推進員等
□行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今年度は、コロナウイルス感染拡大防止から、例年行っていた活動を自粛したり、縮小したりせざるを得ないものばかりであった。そのような中で、学校と地域が話し合い、なんとか実施できた活動を記載する。

○体育科学習発表会における学習支援

例年のように、全校児童と保護者が集って運動会を行うことができず、低、中、高学年の分散発表会となった。テント内で見学する児童の指導、見守りを含め、活動時の児童、保護者の密を避ける対策、学年の教員だけでは準備しきれない会場設営の補助をボランティアの方々にお願いできた。

○読書ボランティアによる読み語り

2学期より、朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。例年のように周囲に児童を集めて聞かすことができない中で、教室後方の児童にもよく内容が伝わるように、挿絵の見せ方を工夫したり、大きな動作を交えたりして読んでいた

○保存会の方々による「幌踊り体験」

3年生では総合的な学習の時間に、彦根の無形文化財に指定され、地域で受け継がれている「幌踊り」を体験した。保存会の方々の手本を見ながら、実際に太鼓を身に付けてたたいたたり、踊りを踊ったりした。



【幌踊り体験】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナウイルスの感染を防ぎながら、学習のねらいを達成するためにはどうすればよいか、地域コーディネーターと学校がよく話し合った。コロナ対応について、地域の方々に理解いただくための地域コーディネーターの尽力と、学校、地域相互の綿密な準備により、安全に実施することができた。

■ 事業の成果

- 体育科学習発表会では、限られた時間の中で、混乱もなくスムーズに会を進めることができ、子供たちも力一杯日頃の成果を発揮することができた。
- 児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。
- 指導上の児童との接触や身に付ける道具の多さなどから、当初は不可能と考えていた「幌踊り体験」であったが、子供たちのためになんとか実施したいという保存会の方々の熱意と、地域コーディネーターを通じた事前の十分な打ち合わせにより実施することができた。少人数で体験できるように指導回数を増やしていただいたり、1回ずつ消毒作業を行ってくださったりしたことで、有意義な学びが実現した。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域コーディネーターと共に新たな協働活動を模索していたところへ、コロナウイルス感染防止対策が必要となり、高齢者の方々に多く協力していただいてきた本校では、ますます協力していただきにくい状況が生まれてしまった。新しい生活様式を実践しつつ、効果的な学習活動ができるような工夫をしていく必要がある。また、本校は児童数が多く、集まれば密になる状況である。ICT等をうまく活用して、直接でなくても地域の方々とつながり、学校、地域相互に有意義な事業を推進したい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

つなげよう 子どもを育む地域の力 ~地域の力で学びを深める~

彦根市	活動名：南中学校地域学校協働本部	城陽小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要			
開始年度：平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 1 人）	ボランティア登録数：75 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	□学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	□学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学 校 □地域学校協働活動推進員
- 行 政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・第 5 学年 家庭科「ミシンでソーイング」

5 年生になり、新たに家庭科の学習が始まった。1 学期は「ソーイング はじめの一歩」として、「さいほう」または「ぬうこと」について学習を進めてきた。2 学期に入り、ミシンを使ってのエプロン製作に取り組むこととなった。しかし、製作の様々な場面で一人ひとりに対応することは担任だけでは非常に困難な状況であった。

そこで、地域の方々や保護者に募集することで、エプロン製作にかかわって支援をいたくことができた。支援にあたっては、活動の最初から関わっていただいたことで、活動の手順や子どもたちの様子を常に把握しながら支援をいただくことができた。支援員については、地域の方は勿論のこと、児童の保護者や祖父母の方がおられ、とても親しみがあり話しやすく進めることができた。また元教員の方もおられ、過去の経験から子どもがつまずきやすい場面を把握されており、適切に支援いたくことができた。また、ミシンという危険を伴う機器を使用するにあたり、安全面についても地域の人々の協力は有効であった。

・全学年 読書活動

地域の方に図書ボランティアをお願いし、毎週火曜日 10:00 より図書室の本の整理や、新刊図書が入ったときの本の登録、年中行事に合わせた図書室のデコレーションなどをお願いしている。

また、毎週火曜日 8:30～8:40、学級毎に読み聞かせをお願いしている。今年度は新たな地域ボランティアの方も増え、毎週 7～8 人来ていただいている。子ども達は読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。さらに、今年度は秋にお話会を行い、ひこね市児童図書研究グループの方に読み聞かせをしていただいた。学年部ごとに実施し、様々な工夫でお話の世界に浸ることができ、子ども一人ひとりの想像力を掻き立て豊かな心の育成につながった。

・就学時健診におけるサポート

11 月に実施した就学時健診では、滋賀県立大学の看護学生や元養護教諭の方に支援をいただき実施することができた。今年度は、コロナ禍において、専門的な立場の方の支援により、三密をさけ安全・安心な健診を実施することができた。



【5 年生家庭科「ミシンでソーイング」】



【お 話 会 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

活動の最初から関わっていただくことで、継続的に効果的な支援を行うことができた。また、子ども達にとって身近な方の支援により親しみやすく気軽に声を掛け合うことができた。また、専門的な方の支援により、コロナ禍を念頭に入れた安全・安心な支援体制で臨むことができた。

■ 事業の成果

身近な地域の方々から支援をいただくことで、子ども達の様子を把握していただいたり学校とのつながりをより深めたりすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教 頭 ）

We Love かめやま

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務〇人）	ボランティア登録数：30 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学 校 ■地域学校協働活動推進員等
□行 政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援をしていただいている。臨時休業の間にボランティアの方に畑の準備をしていただき、登校日に苗を植えることができた。久しぶりに登校してきた子どもたちは大喜びでボランティアさんの話を聞き、丁寧に苗を植えていた。秋にはお芋を収穫し、地面の中から大きなお芋が出てくるたびに大歓声を上げていた。

（2）家庭科学習への支援

5年生の家庭科「ミシン学習」にボランティアをお願いした。子ども一人一人への支援が充実し、技能を高めることができた。

（3）1年生 昔あそび

1年生の生活科「むかしあそびをたのしもう」の学習では、毎年地域のボランティアの協力を得て教育活動を行っている。地域の方々から昔の遊びについての話を聞きながら、コマ回し・はねつき・おはじき・あやとり・おてだまなどの遊びを楽しんでいる。昔遊びの楽しさとともに、人とのふれあいのよさに気づく活動となっている。



【 さつまいもを植えよう 】



【 さつまいもがとれたよ！】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

例年、1学期に3年生の地域学習や2年生の生活科などで、ボランティアの方から地域のことについて詳しく話を聞き、ふるさとへの思いを深めていた。今年は地域に出かけたり、地域の方を学校に招いたりすることを自粛していたため、例年のような活動ができなかった。

2学期になり、少しずつボランティアに来校してもらう機会をもった。地域コーディネーターは、長年安全ボランティアとして尽力いただいており、学校の事情や子どもの実態について理解していただいている。学校と連携を密にし、交渉や話し合いができる。ボランティアの支援を受けている様子は学校ホームページに掲載し、保護者や地域に発信している。

■ 事業の成果

- 地域コーディネーターに、学校のニーズに合った人材を紹介していただき、教育活動の充実につながっている。
- ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができている。
- 支援の必要な行事や学習内容の時期になると、地域コーディネーターから声をかけてもらい助言をいただいている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていたりしていることが、担任の負担軽減につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域がかかる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。
- 今後新たな活動を計画していくために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ： <https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/>

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

未来に向か、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名: 彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要			
開始年度 : 平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数 : 4 人（兼務 0 人）	ボランティア登録数 : 25 人	
<input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等）	<input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	<input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援	
<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り	<input type="checkbox"/> 部活動支援	<input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備	<input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり
<input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		<input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動
<input type="checkbox"/> 郷土学習	<input type="checkbox"/> その他 []		

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
学 校 地域学校協働活動推進員
行 政 その他 ()



【 9 月第 2 回花いっぱい運動 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域貢献活動への参加協力

- ・コロナ禍の影響により、当初予定していた各地域で中学生が参加できる活動が軒並み中止となった。

(2) 学校行事などへの参加協力

- ・入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理、校地内の環境整備（葉刈り、除草作業等）などの活動は、地域コーディネーターに依頼して各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集した。
- ・今年度は秋（9月）と冬（12月）にも花いっぱい運動を行った。（年間通して、3か月に1度のペースで実施）
- ・年間を通して、校長室および正面玄関に、観賞用の花を設置してもらった。

(3) 緑のカーテンプロジェクト（取組 7 年目）

- ・5月上旬に支柱作り、ネット張り、プランターに移植（コロナ禍の影響により、地域コーディネーターの指導のもと、職員で実施した。）
- 6月の学校再開後から、環境委員会や各部活動およびボランティア部による水やり。10月上旬に支柱の撤去作業。
- ・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・実施に当たっては、マスクの着用と参加生徒には事前に家庭での検温および当日の健康観察を行った。
- ・長時間の作業にならないよう、時間配分に気をつけて行った。
- ・学期に1回の地域コーディネーター担当者会議を開き、活動の反省と今後の予定について協議してきた。
- ・地域コーディネーターと連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
- ・学区内の小学校とも連携をとりながら、進めることができた。
- ・地域コーディネーターの顔写真を入れたポスターを作成し、活動を紹介するよう校内に掲示した。

■ 事業の成果

- ・生徒が地域の一員として地域貢献活動のボランティアに参加する中で、感謝の心を持ち、地域の良さを知る機会となった。
- ・緑のカーテンプロジェクトは取組 7 年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境は、自分たちでよくしていく意識づけになった。
- ・花いっぱい運動や葉刈作業では、多くのボランティアの方に参加していただいたことにより、協働することの大切さや地域の方に支えられていることが実感できた。



【 11 月 校地内葉刈作業 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。また、PTAの参画もより一層促していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子を、学校通信と本校ホームページにて紹介している。
<https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長 教 頭 地域連携担当教員 その他 ()

報告書記入者（ 教頭 ）

見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要			
開始年度：平成 23 年度	地域学校協働活動推進員等数：2 人（兼務 0 人）	ボランティア登録数：65 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	□学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学 校 □地域学校協働活動推進員
- 行 政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）「食べ物はかけになろう」（3年生）

総合的な学習の時間には、年間を通して「食べ物はかけになろう」というテーマで、食育に取り組んでいる。大豆に焦点を当てて、丁寧に探求的な学習を進めている。本校には地域に大豆畑があり、毎年豆腐作りやずんだ餅作りに協力してくださる方がおられるので、充実した活動ができている。

（2）「町探検」（2、3年生）

2年生の生活科、3年生の社会科で町探検に出かけている。東西南北、それぞれの地域を訪ねて行き、地域の方にその施設の役割や歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。



【 大豆を煎る体験 】



【 石臼を引いてきな粉づくり 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 今年度は、大豆畑の見学やずんだ餅作りはできなかったが、本校栄養教諭の指導で、きな粉作りに挑戦をした。子どもたちに人気がある揚げパンについているきな粉がどのようにしてできるのか、実際に石臼を引いて体験をすることができた。
- 大豆からどのようにしてしょう油ができるのか、実際にしょう油づくりをされている方に学校に来ていただいた。実物を見せて製造過程をわかりやすく説明していただいた。
- 近くの地域総合センター職員の方に来ていただき、学校を東西南北4方向に分けて、それぞれの地域の特徴を話してもらった。また、自分たちが住んでいる河瀬の良さについて、改めて見つめ直すことができた。



【 私たちの河瀬を知ろう 】

■ 事業の成果

「食べ物はかけになろう」

○学習過程の中で、体験活動を多く位置づけることにより、子どもたちの興味が深まり、学びが深いものになっている。

「町探検」

○地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を誇りに思う気持ちが育っている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○できるだけ早めに、お願いしたい内容と日時を地域コーディネーターの方に伝えることで、いろんな方に連絡を取っていただくことができ、よりよい「連携・協働」に向けての準備ができる。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、その都度、学校行事の案内を届けることによって、参観に来ていたり、子どもの様子を見ていたりしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長
- 教 頭
- 地域連携担当教員
- その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

学校と地域の繋がりで育む2つの愛（地域愛、自分愛）

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成23年度	地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人）	ボランティア登録数：80人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）	■地域行事への参加	■ボランティア・体験活動	
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校
- 地域学校協働活動推進員等
- 行政
- その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）【中山道の秘密を探ろう】

3年生の総合的な学習の時間「未来の中山道をつくろう」の学習では、未来の中山道を想像し、自分が考えるオリジナルの店の構想を練り、企画書（店舗の図や看板等）を作成する。そこで、中山道沿いの商店街のかつての様子を知るために、商工会（高宮商工繁栄会）の方に案内していただいた。子どもたちは熱心に話を聞いたり、見学したりして、詳しく学びたいという意欲を感じた。また、歴史的に重要な拠点であったこと、かつて人通りが多く繁栄していたことを知り、改めて高宮の地域に対する思い（地域愛）を深めることができた。

（2）【コメを育てよう（米作りに挑戦）】

高宮地域はかつて田畠が大半を占めていた。しかし、現在では都市化が進み、田畠は減少し、子どもたちの家庭の多くが農業には縁遠いものとなっている。そこで、地域の農家の方に協力いただき、米作りの体験をした。米作りの仕組みや苦労に気づくだけでなく、スーパーで買う米が、自分たちの地域で育てられていることを知り、改めて地域がいろいろなところつながっていることに気づいた。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度は、新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、ゲストティーチャーを招く機会が少なかった。また、ボランティアに高齢の方が多く、来校いただき子どもと直接触れ合っていただくことも制約が多かった。そこで、子どもたちの作品を通して学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。その一つの事例を紹介する。

【高宮駅コミュニティーセンターをつながりとした交流（高宮駅「書」作品展）】

高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接したコミュニティーセンターがあり、地域の住民同士をつなぐ場となっている。その施設を利用して、4年生の児童が班ごとに共同で制作した「書」の展覧会を開催した。事前に、本校のボランティアであるセンター長から地元住民の学校や子どもたちに対する思いを聞き、その思いに応えるような作品に仕上げられるように考えさせた。今、そして未来の自分たちや地域の方々に伝えたい思いを漢字一字にまとめ、字に合う背景を工夫して仕上げることができ、地域との繋がりを深めた。

■ 事業の成果

高宮駅「書」作品展では、作品展を見た住民から「コロナ禍の中、外出や多くの人が集う機会も制限されているため、心が満たされないことが多かった。しかし、子どもたちの作品から勇気や前向きに生きることの大切さに気づかされた。」と熱いメッセージが多く届けられた。その話を聞いた子どもたちは、地域住民に感動を与えられた自分たちを自ら称えるなど、自尊心（自分愛）の向上がうかがえた。直接触れ合わなくても、作品を通して学校と地域がつながることで改めて気づかれた。また、地域から学校への協力だけでなく、学校から地域へ発信することの重要性にも気づかれた。コロナ禍であるがゆえに、新たに設けられた機会であるが、今後も継続し、さらに学校と地域のつながりを深めたいと考えている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

保護者（PTA役員）、職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。子どもたちはもとより教職員は、コーディネーターや他学年活動支援者との繋がりが薄い。そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。また、カリキュラムマネジメントに、コーディネーターの位置づけも確立できるようにすることも大切である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

彦根市立高宮小学校HP→<https://www.fureai-cloud.jp/takamiya-hikone/>

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長
- 教頭
- 地域連携担当教職員
- その他（ ）



【中山道の探検】



【稲刈り】



【「書」作品展】

地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成21年度	地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	ボランティア登録数：200人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	□学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	■部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		■地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他〔 〕		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 ■地域学校協働活動推進員等
□行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）林業見学

予定していた男鬼森林学習が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。長浜市西浅井町黒山での林業見学とウッディパレ余呉での「バターナイフづくり」「箸づくり」を9月に実施した。主として、機械を用いた木の伐採や運搬の様子を見学し、森林の保全と有効な活用との調和について学習した。

（2）地域との連携

中学校の前庭の葉刈り、剪定および芝生グラウンドの夏休みの水やりを実施していただいだ。宿場祭り、学区運動会、学区文化祭は、コロナ禍により中止。

（3）さんあかレンジャー

あいさつ運動を小学校で行い活躍している。11月に、1年生より新メンバーを選出し、認証式を実施した。



【林業見学の様子】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策をしっかりと行って、林業見学を実施した。マスク着用、手指の消毒、三密にならないようバスの座席や見学時の間隔等、事前にしっかりと協議し、生徒に徹底させた。
- 地域の交流を主とする行事は中止になり、感染拡大防止を図った。3学期に予定していた「お年寄り交流」も中止。
- 「地域学校協働本部だより」を小学校の地域コーディネーターが作成し、小・中学校で配布した。具体的な活動内容の紹介や、学校支援ボランティアの募集など啓発活動を通して、地域学校協働活動を盛り上げていく。

■ 事業の成果

- 林業見学は、今の林業の現場を見て、どのような作業をしているのかが直に見られたのでよかった。来年度の男鬼森林学習につなげていきたい。また、まとめの個人新聞を鳥居本地区公民館とタイアップして、公民館で展示を行い、地域の方に見ていただいた。
- 本来なら、地域の行事に中学生が参加する活動があることは、地域と中学生（中学校）がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があるが、それらの活動が今年度はできなかつた。
- 「地域学校協働本部だより」に学区外通学生と保護者の声を掲載し、10月の学園説明会（見学会）で、次年度の入学希望者に配布、説明ができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 地域学校協働活動をどのように継続・発展させていくか、また、支援してくださる方々のネットワークをどのように広げていくのか、という面では課題がある。このあたりのことも、「地域学校協働本部だより」に掲載し、地域の皆さんとアイデアや力を出し合っていきたいと考えている。
- 男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 1小学校・1中学校で、鳥居本学園として小中一貫教育を行っている。地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。昨年度は、体育大会を小中合同で開催したが、今年度は、コロナ禍で合同開催は実施できなかつた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ ） 地域連携担当教員（ ）

「ふるさとと共に生きる喜びを」 地域とつながる体験活動の支援

彦根市	活動名: 鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校	学校運営協議会: <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度: 平成 21 年度	地域学校協働活動推進員等数: 2 人 (兼務の人)	ボランティア登録数: 約 100 人	
■学習支援 (授業補助、学力補充等)	■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備)	□学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)		□地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

- 学 校 ■地域学校協働活動推進員等
- 行 政 □その他 ()

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

○読みきかせ活動・図書室環境ボランティア

地域の方に図書ボランティアをお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた図書室のデコレーションなどを行っていただいている。

また、毎月 2 回 (火曜日 8:15~8:30)、約 10 名のボランティアに、学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。様々な工夫によってお話の世界に浸ることができ、豊かな心の育成につながっている。



【 読みきかせ活動 】

○5・6年生 家庭科 ミシンボランティア

9・10 月に、5・6 年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを扱う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に慣れるまでに戸惑いもあったため、ボランティアの方にきめ細かな支援をいただいたことで、5 年生はエプロン、6 年生はナップザックを全員仕上げることができた。ミシン縫いの楽しさを味わい、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じることができた。



【 ミシンボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

今年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、例年実施していた活動の中止や変更を余儀なくされた。しかし、地域の方の「子どもたちのために」という熱い思いに支えられ、実施に至った活動もある。実施にあたっては、活動のねらいや感染防止策などについて、地域コーディネーターと事前に十分な打合せを行った。

■ 事業の成果

例年どおりの活動が実施できない中にあっても、学校の事情に添った支援をいただき、子どもたちが、地域の人・もの・自然に触れる体験活動を組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増えている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイディアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しが十分もてない状況にあるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行っていきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていきたい。

また、地域にある主幹団体 (青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、体育振興会など) と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/torimoto-hikone/> 小中学校の様子をお知らせしています。

■コーディネーターと協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

- 校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員
- 「その他 (学級担任)

報告書記入者 (教 頭)

地域の人と共に歩む地域協働活動

彦根市	活動名：稻枝中学校区地域学校協働本部	稻枝中学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 20 年度	地域学校協働活動推進員等数：2 人（兼務〇人）	ボランティア登録数：10 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
□子どもの安全確保、見守り	■部活動支援	■学校周辺環境整備	■学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		■地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
□郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学 校 ■地域学校協働活動推進員
□行 政 ■その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）地域の諸団体と共に地域貢献活動（サマーフェスタ）

- ・例年は、夏のサマーフェスタのイルミネーションの準備、稻枝地区文化祭への参加などを行ってきたが、今年度は、連合自治会の行事が全て中止となり、発表の機会が無くなり、稻中生のがんばりを発揮できなかつたのは残念である。
- ・稻枝地区青少年育成協議会と稻枝地区公民館との共催で稻枝駅前環境美化活動に取り組み、プランターへの水やりを定期的にを行い、稻枝駅利用者に心の安らぎを感じてもらうことができた。

（2）読書活動支援

- ・一学期開始が6月からとなったが、コロナウイルス感染防止という観点から一学期の読み聞かせは中止にして、9月の二学期から月二回のシフトを組んで読み聞かせを実施した。
- ・学校側から読み聞かせの時間にブックトークの要望があったので、10分間という時間内であったが図書室にある本を紹介する程度のブックトークができた。

（3）部活動支援

ソフトテニス部（女子）の活動支援に、ボランティアとして指導に来ていただき、各種の大会に好成績を収めることができた。

（4）特別支援学級への学習支援

コロナ禍にあっても、栽培している野菜は、季節が来れば大きく育ち収穫時期が来る。特別支援学級の生徒は、少人数であり、休校中の3月から5月の間は、3密を避けて臨時に登校してジャガイモの種芋植えや夏野菜の苗植え、イチゴの収穫をすることができた。特別支援学級の栽培活動は、次の3点にわたって活動の意義を感じられ、生徒達に生きた力の育成となっている。

- ① 植物を栽培することで、土に触れ、植物の特徴を知り栽培方法を学びながら、その楽しさを味わうことができる。
- ② 野菜を先生方に販売したり、調理したりすることで生活単元学習の一端となる。
- ③ 焼きトウモロコシや焼き芋を体験することで、いろいろな人と楽しく触れ合い、アウトドアクッキングを楽しむことができる。



【焼き芋の様子】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇一にも二にもコロナウイルス感染防止に努めてきた。具体的にはコロナウイルスの感染防止のため、マウスシールドやマスクを着用しながら読み聞かせを実施し、感染防止に努めた。

■ 事業の成果

○コロナ禍の中、様々な事業が制限されたが、中止の中でも、一定の地域支援活動が実践できたことは、大変よかったですと思われる。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

稻枝中学校では、学校評議会において、学校の取り組みを点検してもらっているが、その場で、各種団体が稻枝中学校の未来志向として、どんな連携・協働活動ができるのかを模索し、計画実行していくとよりよい稻枝中学校がイメージできる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教員 ■その他（部活担当顧問）

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名 : 稲枝中学校区地域学校協働本部	稻枝東小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度 : 平成 20 年度	地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	ボランティア登録数 : 26 人	
■学習支援 (授業補助、学力補充等)	■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備)	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	■部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
■地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)		□地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

- 学校 地域学校協働活動推進員等
□行政 その他 ()

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

本校では、5年生の総合的な学習の時間の一つとして毎年、「米作り」に取り組んでいる。地域のボランティアの方々の協力を得て、田植えや稻刈りなどの体験活動を実施している。今年度は、昨年度まで使用していた学習田が、宅地造成のため使用できなくなったため、ボランティアの方のご厚意で、新たに学習田を提供していただけたこととなった。また、5月末まで休業措置が取られていたため、春に田植えができなかった。見通しが持てない状況だったが、秋に稻刈りができるように、ボランティアの方のご厚意によって田植えをしていただけたことができた。

9月17日には稻刈りを実施することができた。当日に向けてボランティアの方と打ち合わせを綿密に行い、学校と指導の意図を共有することができた。稻刈り指導後の手刈り作業では収穫を喜び、鎌で刈り取った稲を、ボランティアの方や教師に満足そうに見せる児童の姿が数多く見られた。機械刈り作業も見せていただき、手刈り作業の大変さや機械化による効率化を実感することができた。「いつもお米を食べているけれど、米の収穫作業がこんなに大変だったとは初めて知りました。これからは1粒1粒のお米や食べ物を大切にしたいです。」と感想に綴るなど、働く人々の思いや食べ物のありがたさを改めて考え直すことができる貴重な機会となった。

収穫した米は、全校に取組を紹介し、給食としていただき、全校で収穫を喜び合うことができた。また、3学期の調理実習では自分で炊飯をしていただく予定である。



【 稲刈りの様子① 】



【 稲刈りの様子② 】

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

見通しが持てないコロナ禍の中で、学習田の提供や稻刈りに向けての田植え等、ボランティアさんのご厚意で学習を進めることができた。これまでのボランティアの方と学校の関係性がなければ、活動を進められなかつたと感じている。また稻刈り以外の活動に關しても、例年通りの活動がなかなかできなかつた。その中でも感染症拡大防止措置を講じ、ボランティアの方と連携を取りながら、可能な限り活動を進めることができた。日々のコミュニケーションを豊かにし、学校とボランティアの方の間の風通しを良くしておこうことが、どんな状況においても、活動を活性化させていく基本であると感じている。

■ 事業の成果

年間を通して関わってくださる活動もあり、子どもたちの気になる言動については直ぐさま学校へ情報を伝えてくださるので、児童理解や指導においても役立っている。また、ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介してくださることも多く、学校への協力体制がボランティアさん同士で受け継がれている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

栽培・環境美化・交通安全・様々な学校行事や学習支援等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、「新しい生活様式」を踏まえた新たな活動を模索していきたい。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介しています。
(<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>)

■コーディネーターと協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

- 校長 教頭 地域連携担当教職員 その他 ()

報告書記入者 (地域連携担当教員)

「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名 : 稲枝中学校区地域学校協働本部	稻枝西小学校	学校運営協議会 : ■有 □無
地域学校協働本部概要			
開始年度 : 平成 20 年度	地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	ボランティア登録数 : 94 人	
■学習支援 (授業補助、学力補充等)	■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備)	□学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)		□地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

- 学 校 ■地域学校協働活動推進員等
□行 政 □その他 ()

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

(地域と共に花づくり・地域子ども教室)

特色ある学校づくりとして、本校では「花作り」に伝統的に取り組んでいる。全校みんなで花の世話をし、校庭は四季折々の花でいっぱいである。の中でも『メイン花壇』は我が校のシンボルであり、「子どもたちの優しい心、思いやりの心を育みたい」という地域と学校の共通の願いのもと、フラワー委員や6年生の子どもたちは、地域のフラワーサポーターの方々と共に、苗の植え替え、除草、水遣り等の活動に取り組んだ。

また、「地域子ども教室」として、「走り方教室」と「木工教室」を行った。「木工教室」では、地域の方が、この日のために一年かけて木材を集めくださり、その木材を使って子どもたちは自由に創作活動を行う。難しい作業は、地域の方が手伝ってくださるので、低学年でも安心して参加できる人気のある活動となっている。



【 メイン花壇の植え付け 】

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

フラワーサポーターの方には、来ていただく人数を減らして参加いただいた。苗の植え替えには、少人数でグループを組み、いくつかある花壇に分かれて作業をしていただいた。マスクの着用や子どもとの距離を保って活動するなどの確認を、地域コーディネーターの方とも相談しながら活動した。

各家庭で花を育てていただく「ふれあいの花」活動では、通常では町ごとにまとめてプランターを学校まで運ぶことになっているのだが、今年度は分散型学習参観の時に、指定された場所に置いてもらうようにし、密を避けた対応をしている。

「木工教室」では、制限した人数の中、二部制での開催とした。受付時に手指消毒と検温をお願いし、換気も十分に行なった上で、活動を行った。

数年来続いている、「読み語り」では、マスクやフェイスシールドを着用していただき、児童も間隔をとって座って聞いた。



【 木工教室 】

■ 事業の成果

コロナ禍で大きな行事が中止となり、子どもの活動が狭まる中、感染症対策を行い試行錯誤しながらも活動できたことは良かったと思う。制限のある中、地域の方は最大限サポートしてくださり、子どもたちへ声をかけたり、また子どもたちから話しかけたりするなど、相互の交流が見られた。子どもたちは、充実した時間を送り、地域の方のサポートを肌で感じながら活動を行った。



【 図書ボランティアの方による読み語り 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

事業を行うにあたって、日程調整が難しいと感じた。そこで年度当初、年間指導計画を基に、支援していただきたい活動と時期について、事前に地域コーディネーターの方と話す機会を設ける。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

年間3回の会議をもつたが、今年度は2学期に中間学校評価を基に、子どもたちの姿や学校のあり方についての意見をいただいた。

■コーディネーターと協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

- 校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 ■その他 (担当教諭)

報告書記入者 (地域連携担当教員)

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして

彦根市	活動名：稻枝中学校区地域学校協働本部	稻枝北小学校	学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成 20 年度	地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 0 人）	ボランティア登録数：64 人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	□学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	■ボランティア・体験活動
■郷土学習	□その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 ■地域学校協働活動推進員等
- 行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

* 生活科や総合的な学習の時間、社会科などにおける地域学習のゲストティーチャー

- ・2年生の生活科で、地域の名人さん（スクールガード名人や習字名人）に学校へ来ていただき、話を聞いた。習字名人には、硬筆の指導や毛筆の実演をしていただき、次年度の毛筆の学習への意欲付けにもなった。
- ・4年生は、社会科「地域の発展につくした人々」の学習で、曾根沼干拓の様子や地域の人々の思いなどを聞かせてもらった。その学習の後、総合的な学習の時間で、さらに学習を深め、残っている土地を今後どのように活用していくかアイデアを出し合い、2月の学習参観で保護者に向けて発信する予定である。また、干拓前の曾根沼の活用の様子や漁業の方法などについても、ボランティアさんに話を聞く機会をもった。

* 家庭科でのミシン補助

- ・5年生の家庭科で初めてミシンを扱う単元では、ミシンかけの補助に来ていただいた。担任一人で手が回らないので、複数の方に来ていただくことで、スムーズにミシンの学習を進めることができた。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・地域コーディネーターを通して、ボランティアを探したり日程調整をしたりした。窓口を一本化し、日程が重ならないよう工夫した。
- ・4年生の曾根沼学習では、夏休み中にゲストティーチャーと打合せを行い、単元を通して見通しをもち、話してもらう内容を焦点化することができた。また、総合的な学習の時間での探究活動につなげ、現地での見学も取り入れた。
- ・事前に学校のミシンを見せてもらうことで、スムーズに教えていただく事ができた。
- ・話の内容や人数に応じて広い場所で換気しながら実施した。
- ・検温、マスク着用、手指消毒等を実施した。

■ 事業の成果

- ・地域のボランティアということで、中には顔見知りの児童もあり、身近な地域の人に教えてもらうことで地域への愛着も深まった。また、パワーポイントの資料や写真資料など多くの資料も用意してくださり、よりわかりやすく、学習が深まった。さらに、現地見学や体験をすることで、効果的な学びができた。
- ・ミシンの学習では、機械の調子が悪くなったり、扱い方がわからなくて失敗したりする児童が多く、担任一人では十分対応しきれない現実がある。そのため、今回のように複数の補助の方に来ていただけことで、速やかに適切に支援ができ、児童の技能も上達した。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアの高齢化が進み、多くの方が「そろそろ引退を」と言っておられ、後に続いて指導してくださる方を見つけていく必要がある。少しは、新しく引き継いでくださる方も見つけてはいるが、学校では、今来てくださっている方の話を映像に残したり、資料をきちんと保管したりして継承していくことも考えいかなければならない。
- ・地図上にボランティア名や指導内容を書いたボランティア一覧表を作成して、職員室に常に掲示するようにした。今後、新しく増えたボランティアについても書き加え、誰が見てもわかり活用しやすいものにしていく。

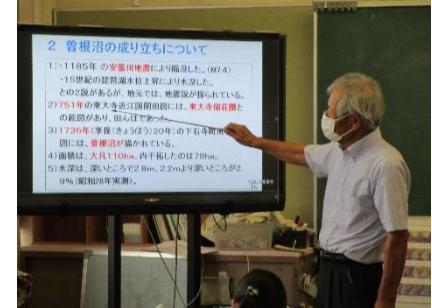
■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校と地域のコーディネーターとが次年度の行事を見据えた話し合いを行った。コロナ禍で、これまでとは変更していかなければならないことなどがあるため、地域の考えを聞いたり、学校の思いを伝えたりし、次年度の方向性を考えた。
- ・学期末に「お話しボランティア」との交流会を開催し、読み聞かせの取組についての感想や意見などを交流する場を設けている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員
- その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）



【ゲストティーチャーによる曾根沼学習】

「子どもたちの笑顔のために」チームわかパンク5年目の取組

彦根市	活動名：若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校	学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印			
開始年度：平成29年度	地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務〇人）	ボランティア登録数：60人	
■学習支援（授業補助、学力補充等）	■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）	■学校行事支援	
■子どもの安全確保、見守り	□部活動支援	■学校周辺環境整備	□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		□地域行事への参加	□ボランティア・体験活動
■郷土学習	■その他〔 土曜教室（学習会）第2.3週の土曜日午前 〕		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校 ■地域学校協働活動推進員等
□行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①命の学習

3年前から実施している地域と協働した「夏の収穫感謝祭」。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本事業は中止と決定。しかしながら、本来の目的である子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、育てる過程を大切にしながら野菜の生長を直に見ることを通して、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、ボランティアさんのご協力をいただいて、臨時休業中の4月から計画的に準備を進めてきた。地域コーディネーターとも入念に打合せを行い、可能なかぎり3密を考慮しながらの設立で、苗植え、収穫に支援をいただくことができた。



【 さつまいもの収穫 】

②読み聞かせ・図書館整備

前年度までは、毎週金曜日に地域ボランティアさんに朝の活動の時間を利用して、子どもたちのために読み聞かせをしていただいていた。今年度は新型コロナウイルス感染症のため、地域ボランティアさんの来校、教室での実施が難しい状況ではあったが、こうした中でこそ、子どもたちの心に響く読み聞かせをとの熱い願いをもってくださり、これまでのやり方を変更してテレビ放送による読み聞かせを実施していただいた。また、年々図書館の環境整備ボランティアさんの確保も難しくなってきており、今年度新たに2名の保護者の方が参加してくださり、時間を見つけて図書館の整備を進めていただいた。



【 テレビ放送による読み聞かせ 】

③地域の高校との協働による防災かまどベンチ製作

昨年度から、地域にある工業高校と連携を図り、6年生が防災かまどベンチの製作に取り組んでいる。このかまどベンチは、防災教育の一環としての取組であるとともに、災害時における学校を核とした地域の防災拠点としての機能をめざし、地域の各団体、自治会とも協働して取組を進めている。高校生には数回にわたり、子どもたちにかまどベンチの活用例の話や、レンガの積み方、座板の製作等を指導してもらい、製作を進めている。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、例年と同様の活動は実施できていない。しかしながら、地域コーディネーターとの連携を大切し、制約された状況下においても、できることは実施していく方向で準備を進めてきた。ボランティアの皆さんには高齢な方が多いため、お互いの安全を考慮し、ボランティアさんの数を厳選すること、デジタル機器を活用することなど、できるだけ直に児童と接触する機会は減らすようにしてきた。また、土曜教室（学習会）では児童の間にパーテーションを設置して、感染予防を図ってきた。

■ 事業の成果

○コロナ禍のなかではあったが、地域コーディネーターを中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」の5つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、例年とは回数は減少している面はあるが、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

○「子どもたちの笑顔のために」という熱い思いで、学校の様々な活動へ協力していただき、「地域の方」から「わかパンクの方」へと、児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。また、近隣にある中学校、高等学校とも連携を図り、地域とのつながりを広げることができつつある。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTAをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。

○学校運営協議会との効果的な協働を図るため、次年度に向けて、学校評議員と運営協議会、わかパンクの組織を見直す予定である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）
報告書記入者（ 教頭 ）

子どもたちのやる気を応援！！

彦根市	活動名 : 放課後学習会	東中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 図書室・理科室ほか		開始年度 : 平成 26 年度	
年間開催日数 : 27 日 (開催ペース : 週 1 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 15 人		学習支援員等 平均人数 : 5 人	
・学習形態 : ■個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : ■平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎でつまずいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。



【 学習会の様子 】

■ 特徴的な学習支援内容

学習教科は自由。生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら運営。「自分が決める」という生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れ、欠席する場合は連絡があれば尊重し引き留めない。当日の休休みには、放送で学習会のお知らせをし、申込者以外の参加も受け入れている。学習時間が長い (1 時間半) ので、1 時間経つ頃に気分転換をはかっている。個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、生徒に、学習の振り返りやボランティアへの連絡・メッセージ等を記入してもらい、ボランティアとの交流に活用している。

コロナ感染予防のため、生徒・ボランティアともにマスクの着用を徹底。座席の取り方、換気等に配慮。感染拡大時は 3 年生を優先して開催するようにした。

■ 事業の成果

「自分が決める」を大切にしているので、参加する生徒は、まじめに主体的に取り組んでいる。長年支援してくださっているボランティアが多いので、個々の生徒への配慮も細やかで、生徒との関係も良く、良い雰囲気の中で学習会ができている。不登校の生徒が参加するなど (別室対応)、学校では対応しにくい生徒も支援することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学力や家庭環境など、本当に支援が必要な生徒が参加しやすいような学習会にするため、担任をはじめ教職員との連携や情報共有をこころがけたい。

報告書記入者 (地域コーディネーター)

未来のために！「来たれ未来塾！」

彦根市	活動名 : 学力補充教室	西中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 本校被服室・理科室		開始年度 : 平成 26 年度	
年間開催日数 : 32 日 (開催ペース : 週 1 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 1 人)	
平均参加人数 : 25 人		学習支援員等 平均人数 : 6 人	
・学習形態 : ■個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : ■平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

・学力補充を目的とした学習教室の開催。放課後の時間帯や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が学習指導を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

・休業中に、今までに学習した内容の復習や十分理解できていないところの補習を行うことにより、基礎学力の定着と学力補充を行う。

・受験を目前に控え、希望進路の実現に向けて学力の向上を目指す。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

・全学年、希望者を募って実施した。

・飛沫感染防止用の衝立を使用して支援した。

・指導前には、学習支援員の検温と消毒を行った。

■ 事業の成果

・生徒に自分の弱点を把握させ、その克服に向けて反復学習をして学力の定着を図った。

・一人ひとりの生徒の実態に応じた個別の学習支援を実施した。

・生徒が地域住民や地域の大学生と交流することで地域への所属意識が持てた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・新型コロナ感染症拡大のため、学習支援員を確保することが難しかった。

■ その他

・さらに学習支援員を増員したい。



【 放課後学習会 】

報告書記入者 (教頭)

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名 : 放課後バッックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室		開始年度 : 平成 31 年度	
年間開催日数 : 18 日 (開催ペース : 週 1 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 18 人		学習支援員等 平均人数 : 3 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

算数科を中心に、基礎・基本の定着に向け個別指導を主とした教室を 4~6 年生の希望者を対象に年間通して 18 回開催した。

■ 特徴的な学習支援内容

プリントやドリルの内容を基礎・基本を中心とするとともに、個に応じて選択ができるように用意し、個別指導を主とした学習支援ができるようにした。



■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

下校時、確実に保護者が迎えに来られるかどうかを確認し、迎えが可能な児童のみ参加することとした。

■ 事業の成果

地域の方々に個別に丁寧に指導していただいたことで「分かった！」という思いを強く持つことができた。

【4年生 放課後バッックアップ教室】

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。

報告書記入者 (地域連携担当教員)

地域の方による学習支援

彦根市	活動名 : 地域の方による学習支援	城北小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 学校教室		開始年度 : 平成 31 年度	
年間開催日数 : 46 日 (開催ペース : 週 2 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 30 人		学習支援員等 平均人数 : 4 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業前の待機時間等)			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

教員志望の大学生や地域住民により、個々の学力向上を図ることを目的とした学習支援を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

・教員志望の大学生が、教科学習に苦手意識のある子どもに寄り添いながら個別指導を行った。
・英語に堪能な地域住民が、一人ひとりの子どもに向き合いながら英語によるコミュニケーションを図った。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

本年度は、コロナ禍での取組のため、地域住民の協力体制を積極的に進めることができたことから、将来教員を目指している大学生の協力を呼びかけ、学校で実施している対策に基づいて学習支援を行った。

■ 事業の成果

児童からは「分からなかったところが分かってうれしい」「できなかつたことができてすっきりした」という声が聞かれた。教員からは、「普段時間をかけることができなかつた児童にじっくりと教えることができてよかったです」という声が聞かれた。このようなことから、学力補充に関して一定の効果があったと考えている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習に関するボランティアを担っていただける人材は地域住民の元教員が多かったが、コロナ禍でも協力が得られるように、今後も教員を目指している大学生等への参加呼びかけを進めていきたい。

報告書記入者 (学校運営協議会担当)

来てみる・やってみる 「土曜教室 てみる」

彦根市	活動名 : 土曜教室 てみる	中央中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 理科室		開始年度 : 平成 26 年度	
年間開催日数 : 15 日 (開催ペース : 週・月 2 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 20 人		学習支援員等 平均人数 : 12 人	
・学習形態 : ■個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 ■土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : ■企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 ■NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

子どもたちへの学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。



■ 特徴的な学習支援内容

1対1または子ども2人に指導者1人とし、学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にして、学習の動機付けとなるように、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。支援員やボランティアとの対話や学習後の交流を楽しみにしている子どもも多い。2時間程度の学習であるが、学習の休憩時間を交流の時間として設定し、支援員と子どもたちとの交流の機会を設けている。毎回のしめくくりの時間に子どもに活動の振り返りをさせて、ここでの学びが他の活動や時間に広がるようにしている。

【感染対策を講じた上での実施】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

全校生徒に案内を配布し、希望を募っている。部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して行っている。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクをつけて学習するとともに教室内にパーテーションを設置している。毎回、実施後に学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。

■ 事業の成果

個別指導により、つまずきを的確に把握しながら学習支援を行い、基礎学力の定着を図ることができている。また、週末に学習に集中し充実した時間を過ごすことができることから、学習意欲の向上や学習方法の定着にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員やサポーターの確保、企画・運営ができる地域コーディネーターの確保が必須である。

報告書記入者 (教頭)

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名 : 学び育ち L L 教室	中央中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 中地区公民館		開始年度 : 平成 24 年度	
年間開催日数 : 40 日 (開催ペース : 週 1 日、月 4 回)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 13 人		学習支援員等 平均人数 : 10 人	
・学習形態 : ■個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : ■平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : ■企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 ■NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。



■ 特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にし、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

中央中学校の土曜教室と同時期に全校生徒に案内を配布。また、活動状況はフェイスブックで発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。

感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクを着用して学習し、教室では間隔をとって行っている。

■ 事業の成果

子ども個人のモチベーションにあわせた学習を進めることで主体的に取り組む習慣ができてきている。また不登校傾向や配慮を要する子どもも参加し、気分転換や自分を見つめる時間になり、地域での居場所づくりになっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材の整備と教材の保管場所の確保が課題である。

報告書記入者 (教頭)

放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名 : 水曜ゼミ	南中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 図書室		開始年度 : 平成 26 年度	
年間開催日数 : 14 日 (開催ペース : 週 1 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 1 人)	
平均参加人数 : 20 人		学習支援員等 平均人数 : 3 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- 放課後学習「水曜ゼミ」(10~2月)は、3年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身につけるために、プリントを使って学習している。
- 例年実施している夏休み補充教室は、今年度は実施していない。



【 水曜ゼミ 】

■ 特徴的な学習支援内容

学習支援員は、教員や地域の住民、大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容のプリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

水曜ゼミは受験を控えた3年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。地域コーディネーターが活動を紹介したボランティア便りを作成し学習支援員の確保にあたっている。

■ 事業の成果

家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携して学習支援員が確保できる体制にしていきたい。

報告書記入者 (教頭)

「わかった」「できた」子どもの笑顔のために

彦根市	活動名 : がってん教室	城南小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室		開始年度 : 平成 31 年度	
年間開催日数 : 3 日 (開催ペース : 年 3 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 1 人)	
平均参加人数 : 120 人		学習支援員等 平均人数 : 6 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- ・夏季休業中の3日間を設定し、1日2時間、1学期の学習内容を中心とした学力補充を行う。

■ 特徴的な学習支援内容

・個々の児童の課題や児童が高めたいと考える力に合った学習内容を選択できるようにしている。発達段階に応じて、前半は、同一課題をもとに基礎的な学力の定着を図り、後半は、個々の選択した課題に対する支援をする形で実施する学年もある。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・開催要項を全家庭に配布し、目的や取組方法等を担任から児童へ説明した上で、希望者を募る。コロナ対応として、課題別やグループ学習を行わず、自教室の自分の座席での学習とした。
- ・参加児童の検温と記録をするとともに、学習後は机、椅子等を消毒した。

■ 事業の成果

・コロナ禍ではあったが、例年と同程度の参加者数であった。普段の学習以上に、教師や支援員に気軽に質問する児童の姿が見られ、課題を克服でき、満足そうな姿が多く見られた。また、今年は特に担任が指導の中心だったので、個々の学習状況を十分把握した上での指導ができたことが指導する側としても成果であった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・コロナ対応として個別学習が中心となったので、個々に十分に対応できる、指導する側の人員確保が一番の課題である。感染の拡大状況によっては、外部の方の支援をどこまで求められるか、支援を受けられるか、隨時検討して対応する必要がある。

報告書記入者 (地域連携担当教員)

彦根市	活動名 : 夏休み前算数教室	城陽小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 各教室		開催年度 : 平成 31 年度	
年間開催日数 : 3 日		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 1 人)	
平均参加人数 : 120 人		学習支援員等 平均人数 : 8 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

昨年度までは、夏季休業中に実施していたが、今年度は午前中の授業を終え、午後の時間を利用しての 3 日間 (7 月 20 日(月)・21 日(火)・22 日(水)) とし、いずれも 13:00 から 14:25 までの実施とした。算数科を中心に、個別の学力補充を目的とした。

■ 特徴的な学習支援内容

保護者からの希望または、担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心として進めることができた。つまずきや戸惑いには、個別にスマルステップによる支援を行うことができた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

保護者あてに希望者を募る、または、個別指導が望ましいと考えられる児童に参加を促す声かけをすることで参加を呼びかけた。支援員として、学区内の滋賀県立大学の学生、本校の卒業生、そして元教員に呼びかけをして、たくさんの方の支援を得ることができた。コロナ対策として、マスクを着用することや、密にならないようオープンスペース等を利用して実施した。

■ 事業の成果

基礎、基本の積み上げが不十分な児童にとって、個別対応の支援は心強く、また反復や発展の演習問題を示されることで、自身のつまずきに対して意欲的に向き合い学習をすすめることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

たくさんの参加者に対応できるように、支援いただける支援員の確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアの発掘をしていきたい。



【算数学力補充教室】

報告書記入者 (教頭)

夏休み学習教室～基礎・基本の学力の定着を目指して～

彦根市	活動名 : 夏休み学習教室	亀山小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室		開始年度 : 令和 2 年度	
年間開催日数 : 3 日 (開催ペース : 夏季休業中)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 100 人		学習支援員等 平均人数 : 3 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- ・夏季休業中の 3 日間 (8 月 3 日・4 日・5 日)、いずれも 8:20 から 11:00 まで実施した。
- ・基礎・基本の学力の定着を目的としている。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・昨年度まではプリントやドリル等を使った自習形態であったが、ほとんどの児童が参加する状況であるため、教科書やノートを使用した通常の授業形態もあわせて行うこととした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

- ・今年度は特に「長期にわたっての臨時休業により欠けた学習機会を確保するため実施します」と参加を呼びかけた。
- ・コロナ禍の状況なので、外部の方の来校はできるかぎり控え、支援員は少人数にした。

■ 事業の成果

- ・それぞれの教室に担任以外の教員 (支援員) がいることで、個別指導をしたりプリントの採点をしたりして、効果的に学習を進めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・次年度は、状況により、地域に広く声をかけて学習支援員を確保し、よりきめ細かな支援ができるようにしたい。



【 夏休み学習教室の様子 】

報告書記入者 (教頭)

学びを育む学習会

彦根市	活動名 : 彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 被服室		開始年度 : 平成 28 年度	
年間開催日数 : 40 日 (開催ペース : 10 月以降週 2 回、夏季休業)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 10 人		学習支援員等 平均人数 : 4 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

毎日の授業だけでは、十分に学力が定着しない生徒も多く、基礎学力の定着のためには、学力補充が必要となる。しかし、一人では家庭学習に取り組めなかったり、何を学習してよいのかわからなかったりする生徒も多い実情があるため、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別の対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

■ 特徴的な学習支援内容

* 夏季休業中の補充学習および質問教室

全学年の生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員の数名で行っている。

* 3年生の放課後学習会

10 月から毎週火曜日・木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材のわからない問題や、数学と英語等の基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。



【 3年生放課後学習会 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

* マスクの着用と使用する教室には消毒液の設置と使用後の消毒作業を実施している。

* 学習支援員を確保するため、募集ポスターとチラシを製作し、近隣の大学に配布した。

■ 事業の成果

* 家庭学習に取り組めない生徒が、学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが学習にまじめに、意欲的に取り組めていた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

* 学校の立地条件から、学生の学習支援員が集まらず、確保が難しい現状にある。

* 支援の回数が事業費によって左右され、十分な学習機会を設定することが難しい。

■ その他

・活動状況は、本校HPにて掲載している。 <https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>

報告書記入者 (教頭)

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名 : 学力補充教室	鳥居本中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室		開始年度 : 平成 26 年度	
年間開催日数 : 10 日 (開催ペース : 1 学期 6 ~ 7 月、2 学期 11 ~ 12 月)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 5 人		学習支援員等 平均人数 : 2 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

生徒の学力補充を目的として放課後の学習支援を実施。

■ 特徴的な学習支援内容

基礎的な問題や分からぬ問題を中心に、個別に学習支援をしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、学校が長期の臨時休業となつたため、学校が再開された 6 月から、学習面で不安のある生徒を対象にして実施した。

■ 事業の成果

個別対応を中心としたので、生徒からは「わかりやすかった」と好評であった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

昨年度までは、長期休業期間に実施してきたが、今年度は中学校再開後、放課後の時間が比較的に長かったので、平日に実施できた。今後は、平日の放課後に定期的に実施していくとよい。

学習支援をしてくださる地域の方をどのように集めるかが課題である。

報告書記入者 (地域連携担当教員)

輝く笑顔 一人ひとりの「わかった！」をめざして

彦根市	活動名 : 学力補充教室	鳥居本小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室		開始年度 : 令和2年度	
年間開催日数 : 18日 (開催ペース : 月3日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1人 (兼務0人)	
平均参加人数 : 15人		学習支援員等 平均人数 : 1人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

国語科・算数科を中心に、少人数で個別指導を実施し、基礎基本の学習内容の定着を図る。

■ 特徴的な学習支援内容

基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには、個別に対応し、「わかった」を実感できるように支援する。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

会場となる教室の消毒や換気、室内温度等をこまめに確認し、感染症の拡大防止に努めた。

■ 事業の成果

国語科・算数科にとどまらず学習そのものに苦手意識をもつ子どもがいるので、「わかった」「できた」が実感できるような課題設定を心がけた。その結果、一つ一つ学習を積み上げることの大切さに目を向けることができるようになってきた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

日課を工夫して放課後の時間を生み出すようにしてきたが、高学年では、学力補充のための時間を確保することが難しかった。特に、感染症の影響で、長期休業中に補充教室を実施できなかったのが残念だった。

報告書記入者 (教頭)

本当にわかったと生徒が感じる学習サポート

彦根市	活動名 : 未来塾	稻枝中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 多目的教室、図書室		開始年度 平成28年度	
年間開催日数 : 34日(8月以降 週1回 月5回)		地域学校協働活動推進員等数 : 2人 (兼務0人)	
平均参加人数 : 15人		学習支援員等 平均人数 3人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

・目的 自ら学ぼうと意欲のある生徒への学習支援を行い学力向上を図る。

■ 特徴的な学習支援内容

・夏休み、9月から2月までの毎週水曜日、保護者懇談会の期間に実施。3年生を対象に高校入試に向けた学習支援。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

・生徒の募集→3年生の生徒及び保護者に、質問教室の趣旨を説明して募集。

3年生対象の高校入試に向けた質問教室は、希望者はもとより、学習塾に通っていない生徒や教師から見て受験対策を必要とする生徒に勧める。

当初の応募人数が31名と多数だったので、密を避けるため2班編制とした。

■ 事業の成果

・参加者が、質問教室に「来てよかった、わかった」と感じている。

・個別に丁寧に指導してもらい「わかった」という思いを持ち、自信を深めることにつながった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・学習支援員の発掘が大変であり、ボランティアに頼るだけでは、継続は難しいと考える。

・学校と地域コーディネーターの打合せが重要である。

報告書記入者 (地域コーディネーター)

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名 : かがやき教室	稻枝東小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室		開始年度 : 平成 30 年度	
年間開催日数 : 22 日 (開催ペース : 月 2 回)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 18 人		学習支援員等 平均人数 : 4 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

2・3年生の児童を対象に、月に2~3回程度の学力補充の時間を計画した。

■ 特徴的な学習支援内容

児童がつまずきを感じている学習内容を選び、個別指導の形式で学習支援をした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

学期ごとに希望者を募った。密を避けるため、また、個に応じて充実した指導ができるように、参加する人数には制限をかけた。感染症対策として、着席する席ができるだけ離し、手指消毒やマスク着用の徹底を図った。学習支援員は検温を実施した。

■ 事業の成果

漢字や計算など基礎的な力を高めることで学ぶ意欲を向上させることができた。



【 学習支援の様子 】

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員は経験豊富な元教員の方ばかりのため、学習支援活動自体の課題は特に無い。今後も事業が継続し、子どもたちの学力補充ができるように希望する。

報告書記入者 (地域連携担当教員)

わくわく はえみ学習

彦根市	活動名 : はえみ サマースクール ホップタイム	稻枝西小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 各教室		開始年度 : 平成 30 年度	
年間開催日数 : 8 日 (開催ペース : 夏休み 3 日、月 1 日 (ホップ)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 18 人		学習支援員等 平均人数 : 7 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (グループ学習)			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

・学習内容の理解に課題を要する子どもの学力補充。・確かな学力の定着をめざすグループ学習。

■ 特徴的な学習支援内容

・ホップタイムについては、高学年の実施とし、学年を 2 グループに分け実施した。
課題については、3 つの難易度のプリントを作成し、自分の力量にあった問題を解きながら進めていった。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

・「はえみ サマースクール」については、毎年希望者を募って実施していたが、希望者が多数になることが予想されたため、今年度は学年 3 人程度の参加とした。

■ 事業の成果

・ホップタイムの児童アンケートでは、少人数で行うこの学習で、「分からない所が分かるようになった」「学習が楽しくなった」と答える児童が増えた。また、支援員が子ども 2~3 人に 1 人付くため、分からない所があるとすぐに支援に入れるため、全員が課題をやり残すことなく学習することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・長期休業中は登下校の安全確保が難しく、この取組に参加できない児童が出てくることが課題である。



【 ホップタイム 】

報告書記入者 (地域連携担当教員)

わかる楽しさを味わい、学ぶ意欲を高める「ぐんぐんクラブ」

彦根市	活動名 : 「ぐんぐんクラブ」	稻枝北小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 教室		開始年度 : 平成 28 年度	
年間開催日数 : 40 日 (開催ペース : 週 2 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人 (兼務 0 人)	
平均参加人数 : 5 人		学習支援員等 平均人数 : 2 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

少人数の個別指導のような学習で、「わかる」楽しさを味わい、自信をつけ学習への意欲を高められるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

課業日の月曜日 (1~3 年生) 水曜日 (4~6 年生)、学期ごとに参加児童を募集し、定員を 8 名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数を中心に宿題をしたり、担任が個に応じた課題 (プリント等) を準備したりし、個別の進度で学習を進める。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。また、個別指導が有効と思われる児童へは事前に保護者に呼びかけ、参加を促している。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、4~7 名と少人数で実施している。感染症対策として、前年度まで使っていた狭い部屋ではなく、通常の教室において、常時換気しながら、密にならないよう席を離して実施している。

■ 事業の成果

集団での学習では身につきにくい児童への個別の支援が充実し、大変効果があった。学習に苦手意識のある児童にとって、わからないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「わかった」という実感をもちやすい。また、個別に苦手な分野に絞って復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、声のかけ方に工夫が必要である。効果があることを知らせ、児童へ声をかけると共に、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。課題の準備が間に合わないことがあったため、担任との連携を密に

報告書記入者 (教頭)

彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱

(名称)

第1条 この委員会は、彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（以下「地域学校協働活動」という。）を推進することを目的として設置する。

(任務)

第3条 実行委員会は、市域での概ね次の各号の事項について調査・研究・協議を行うものとする。

- (1) 事業全体の企画・運営・調査研究に関するこ
- (2) 地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校支援ボランティアの養成及び連絡調整に関するこ
- (3) 事業成果の報告に関するこ
- (4) 事業の評価に関するこ
- (5) その他必要と認められること

(組織)

第4条 実行委員会の委員は、次に掲げる者のうちから 25 名以内で組織する。

- 2 彦根市教育委員会教育長が委嘱する行政関係者、学校教育関係者、P T A 関係者、社会教育関係者（地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校運営協議会関係者）等をもって構成する。

(役員)

第5条 実行委員会に委員長 1 名、副委員長 1 名を置く。

- 2 委員長は、実行委員会を代表して会務を総括する。副委員長は、委員長を補佐する。

(任期)

第6条 委員の任期は、就任した日から当該年度の 3 月 31 日までとする。ただし、欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 実行委員会の会議(以下「会議」という。)は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 会議は、委員長が必要と認めた者に参加を依頼することができる。
- 3 必要に応じて教育委員会内関係職員による連絡会議を開くことができる。

(部会)

第8条 実行委員会に、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会の委員は、実行委員会の委員のほか委員長が必要と認めた者をもって充て、委員長が指名する。
- 3 専門部会に関する必要な事項は、委員長が定める。

(庶務)

第9条 実行委員会の庶務は、彦根市教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるものの他に、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成31年(2019年)4月1日から施行する。

令和2年度彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿

順不同敬称略

	氏 名	役 職
1	富永 美砂穂	東中学校区 地域コーディネーター
2	藤井 和麿	西中学校区 地域コーディネーター
3	北村 直久	中央中学校区 地域コーディネーター
4	木ノ内江以子	南中学校区 地域コーディネーター
5	米田 紀代子	彦根中学校区 地域コーディネーター
6	森 正治	鳥居本中学校区 地域コーディネーター
7	北川 浩志	稻枝中学校区 地域コーディネーター
8	小林 朱実	若葉小学校 地域コーディネーター
9	柴田 雅美	N P O 法人 Links 代表
10	磨谷 絵美子	彦根市 P T A 連絡協議会 事務局長
11	松田 晓郎	東中学校 教頭
12	森 貞以子	西中学校 校長
13	東野 了賢	中央中学校 教頭
14	久保田 篤	南中学校 教頭
15	小磯 浩司	彦根中学校 教頭
16	西山久美子	鳥居本中学校 教頭
17	北村 正一	稻枝中学校 教頭
18	野音溪 守	若葉小学校 教頭
19	藤井 純子	稻枝西小学校 校長
20	宮崎 良雄	学校教育課 課長
21	伊東 瑞江	学校教育課 副主幹
22	久保田 雄介	生涯学習課 課長
23	磯崎 久和	生涯学習課 主幹

令和2年度 彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿

No.	氏名	所属・役職等	対象校
1	富永 美砂穂	東中学校区地域コーディネーター	彦根市立東中学校
2	馬場 敬子	東中学校区地域コーディネーター	彦根市立城東小学校
3	角 寿賀子	東中学校区地域コーディネーター	彦根市立城東小学校
4	安河内美沙子	東中学校区地域コーディネーター	彦根市立佐和山小学校
5	橋野 賀代	東中学校区地域コーディネーター	彦根市立佐和山小学校
6	小堀 真知子	東中学校区地域コーディネーター	彦根市立旭森小学校
7	岡崎 みか	東中学校区地域コーディネーター	彦根市立旭森小学校
8	藤井 和磨	西中学校区地域コーディネーター	彦根市立西中学校
9	宇野 富美代	西中学校区地域コーディネーター	彦根市立西中学校
10	尾田 英昭	西中学校区地域コーディネーター	彦根市立城西小学校
11	小山 茂隆	西中学校区地域コーディネーター	彦根市立城北小学校
12	北村 直久	中央中学校区地域コーディネーター	彦根市立中央中学校
13	柴田 雅美	中央中学校区地域コーディネーター	彦根市立中央中学校
14	小野 忠夫	中央中学校区地域コーディネーター	彦根市立平田小学校
15	西村 重晴	中央中学校区地域コーディネーター	彦根市立金城小学校
16	木ノ内江以子	南中学校区地域コーディネーター	彦根市立南中学校
17	寺村 和代	南中学校区地域コーディネーター	彦根市立南中学校
18	永井 嘉和	南中学校区地域コーディネーター	彦根市立城南小学校
19	西崎 文雄	南中学校区地域コーディネーター	彦根市立城陽小学校
20	岩野 幹夫	南中学校区地域コーディネーター	彦根市立龜山小学校
21	平塚 寿和子	彦根中学校区地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・高宮小学校
22	馬場 英一	彦根中学校区地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・高宮小学校
23	澤田 勘一	彦根中学校区地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・河瀬小学校
24	米田 紀代子	彦根中学校区地域コーディネーター	彦根市立彦根中学校・河瀬小学校
25	森 正治	鳥居本中学校区地域コーディネーター	彦根市立鳥居本中学校
26	後藤 絵美子	鳥居本中学校区地域コーディネーター	彦根市立鳥居本小学校
27	北川 まき	鳥居本中学校区地域コーディネーター	彦根市立鳥居本小学校
28	北川 浩志	稻枝中学校区地域コーディネーター	彦根市立稻枝中学校
29	藤田 治夫	稻枝西小学校運営協議会会長 兼稻枝中学校区地域コーディネーター	彦根市立稻枝中学校・稻枝西小学校
30	田村 宗久	稻枝中学校区地域コーディネーター	彦根市立稻枝東小学校
31	馬場 清行	稻枝中学校区地域コーディネーター	彦根市立稻枝西小学校
32	川瀬 保雄	稻枝中学校区地域コーディネーター	彦根市立稻枝北小学校
33	小林 朱実	若葉小学校運営協議会会長 兼若葉小学校地域コーディネーター	彦根市立若葉小学校

(敬称略)

令和2年度

「彦根市地域学校協働活動推進事業」
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業
実践事例集
発行 令和3年(2021年)2月
彦根市教育委員会事務局生涯学習課
TEL0749-24-7974 FAX0749-23-9190
E-mail syogai@mx.hikone.ed.jp